

学習内容報告書 フォーマット

学校名	三重県鳥羽市立答志小学校
授業者	廣川 清治

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

干物づくり名人をめざそう

1-2. 学年

2・3年生

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

生活科、総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

「干物づくり」は、本校の海洋教育プログラムの「海を利用する活動」中学年「海産物づくり」に位置づけられている。毎年継続して行われている活動である。今年度から本校では複式学級ができ、これまで単独学年で行っていた「干物づくり」を2・3年生で行った。2年生は、「干物づくり」の体験のみを行い、3年生は、「干物づくり」の意味を調べたり自分だけで「干物づくり」ができるように説明書を作ったりする活動を展開した。そのため家庭への協力をお願いした。

「干物づくり」当日は、地域で島の旅をプロデュースされている「島の旅社」さんをお願いして、「干物づくり名人」とお手伝いいただけるボランティアの方を頼んだ。また、準備物も「島の旅社」と魚の入手は栄養教諭と環境設定は用務員と打ち合わせをしておいた。

「干物づくり」では、はじめに説明書通り自分でやってみて、その後、「干物づくり名人」に教えてもらい干物づくりをおこなう。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

- 地域の方をゲストティーチャーに迎え、保護者やボランティアの方に手伝ってもらいながら、自ら魚をさばいて「干物づくり」を体験する。
- 「干物づくり」の体験を通して、海の恵みをはじめ、地域の魅力を見つめ 直す機会とする。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- 子どもたちが、日々の生活の中で当たり前だと思っている「干物づくり」など地域の魅力について深く知ることができる。また、地域の魅力を実際に日々行っている、地域の先生が身近にいることに気づくことができる。
- そのことを通して、郷土愛を育てることができる。

1-7. 単元の展開（全 7時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	① 「干物」とは何か？知っていることを出し合い、意見交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「干物」について関心や意識が持てるように、楽しく家庭のことなどを話すことができることを第一にする。 ○ すべての児童が、話をすることができれば本字の目的を達したこととしたい。
2	② なぜ「干物」にするのか？「干物」のいいところを家族などに聞き取り、みんなで意見交流をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 聞き取りができない児童に配慮し、みんなで意見交流することで「干物」の意味について理解したい。 ○ 「干物」を作りたいなど児童が思えるように、楽しい話し合いをめざす。
3	③ 「干物」の作り方を家族などに聞き取り、ポスターにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 聞き取りができない児童に配慮し、教師とともに簡単なポスターにまとめるなど工夫する。 ○ 積極的にポスターづくりを行おうとしている児童には、写真印刷など準備を行う。
4	④ ポスターセッションをおこない、「干物づくり」の説明書をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人の児童が、自分の力だけで干物づくりを行うために、みんなが調べてきた方法をもとにクラスとしての説明書をまとめる。 ○ より具体的な方法になるように、実際の場면을イメージして質疑応答を盛んにする。
5	⑤ 「干物づくり」をおこなう。 ・ 説明書通り、自分でやってみる。 ・ 「干物づくり名人」に教えてもらい干物づくりをおこなう。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「島の旅社」と連携し「干物づくり名人」とお手伝いいただけるボランティアの方を頼む。 ○ 準備物は「島の旅社」と魚の入手は栄養教諭と環境設定は用務員と打ち合わせをしておく。 ○ 包丁を持つ反対の手には軍手をはめるなど、安全面に配慮する。
6	⑥ 「干物づくり」のふり返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちが、日々の生活の中で当たり前だと思っていることが、いかに魅力的で大切なことなのかを実感できるようなまとめにしたい。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- 地域の方をゲストティーチャーに迎え、保護者やボランティアの方に手伝ってもらいながら、自ら魚をさばいて「干物づくり」を体験する。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 本字のめあてや活動の流れを確認する。</p> <p>2 「干物づくり名人」やボランティアの方々、保護者のみなさんに挨拶をし、「干物づくり」を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明書通り、自分でやってみる。 ・ 「干物づくり名人」に教えてもらい干物づくりをおこなう。 <p>3 干物を干す。</p> <p>4 活動のまとめをする。</p>	<p>○ これまで学んできたことを生かして、楽しく、安全に干物づくりを行うことを伝える。</p> <p>○ 干物づくりは、まず説明書通り自分でやってみる、その後、「干物づくり名人」に教えてもらいながら、干物づくりをおこなうことを確認する。</p> <p>○ 包丁、まな板、魚を準備し、魚をさばく→洗う、樽に入れるなど一連の流れを確認する。</p> <p>○ 包丁を持つ逆の手に軍手をはめるなど、安全対策を行う。</p> <p>○ はじめにさばいた魚を調味液につける。</p> <p>○ ボランティアの方々や保護者の方々に、教えてもらいながら魚をさばく。</p> <p>○ 「干物づくり名人」に塩漬けの方法を教わり、塩味の干物を作る。</p> <p>○ 調味液や塩水に漬けた魚を干す。</p> <p>○ 鳥などに持って行かれないように対策する。</p> <p>○ めあてに対してふり返りを行う。</p> <p>○ ボランティアの方々や保護者の方々に、お礼を言う。</p> <p>（評価）</p> <p>安全に気をつけて楽しく干物づくりができたか。</p> <p>「干物づくり名人」の話をしっかり聞いて、干物づくりができたか。</p>

3. 今回の活動の自己評価

- ・ 子どもたちは、自分のやり方やクラスでまとめた方法で、楽しく干物づくりをすることができた。そしてボランティアの方々に教えてもらうことによって、更に自信を持ったようだ。
- ・ 海の恵みを大切に食するため、干物にして保存するという知恵を学ぶことができた。そして実際に体験することにより、これからも自分でやってみようという気持ちを持つことができた。
- ・ 同じ魚の干物づくりでも、いろいろな作り方があり、それがいいところだと気づく子どもがいた。



4. 今後の課題

- ・ 「干物づくり」の道具などの準備、職員の役割分担については、流れができあがっている。しかし、子どもへの安全面のことなどは必ずマニュアル化しておくとうい。
- ・ 「干物づくり」まではできるようになっているが、その後のことや干物を食べること、活動を発信していくなどの取り組みが不十分である。



5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・ 学校の詳しいことは用務員さんに、地域の詳しいことは「島の旅社」に相談すると、何でも教えてくださる。
- ・ 保護者の中にも「干物名人」がいらっしゃることもあるので、干物づくりまでの授業で、子どもたちに相談するとよい。

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。